

(2) 新型低床車両の導入

○運転開始後50年以上を経過した老朽車両の更新に併せ、新型低床車両をループ化の実現までに3両導入します。



〈新型低床車両の特長〉

- ・バリアフリー対応で、既設の停留場との段差は大幅に縮まります。
- ・定員は現在の車両よりも2割程度増加します。

期待される効果

- バリアフリー対応で段差が少なくなるため、高齢者をはじめ多くの利用者にとって利便性が向上します。
- 定員の増加による車内混雑の緩和や、冷房機設置等の機能性の充実により、快適性が向上します。
- 魅力的なデザインの車両等の導入や交通機関としての利便性の向上により、市民や観光客の新規需要が期待されます。

スケジュール

- 平成24年度に1両購入し、平成25年度に試験運行などを行ったのち本格運行を開始し、その後、平成26年度にはさらに2両購入することにより、ループ化の実現までに合計3両を導入します。

さらなる取組の実施

- 札幌市の車両は、30両(ササラ電車を除く)のうち24両が運転開始後50年を経過し老朽化しています。ループ化の実現までに新型低床車両を3両導入した後も、計画的に新型低床車両を導入します。

(3) 既設線の機能向上

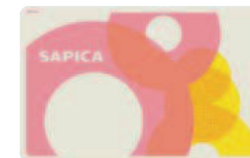
- 道路の拡幅事業と連携して停留場のバリアフリー化を進めます。
- 老朽化したレールを計画的に更新し、振動等を抑えるレールへ改良します。
- ICカード「SAPICA」を導入し、乗り降りをスムーズにします。

期待される効果

- 停留場の幅が1m程度から2m程度となるほか、新型低床車両との段差も少なくなり、バリアフリー化が図られます。
- 停留場の幅を広げるにあたっては、既設線で予定されている道路の拡幅事業と連携することで、歩道も含めたバリアフリー化が推進されるとともに、交通の円滑化が図られます。
- レールの改良により、車両の振動や騒音が抑えられ、乗り心地の向上が図られます。
- 1枚のICカードで地下鉄やバスとの乗継が可能となり、これまでよりも短時間でスムーズに乗降することができるようになります。

スケジュール

- 既設線の停留場のバリアフリー化については、道路の拡幅事業のスケジュールに合わせて平成27年度頃から実施します。
- 地下鉄で導入されているICカードの路面電車・バスとの共通利用は、平成25年度に実施します。



さらなる取組の実施

- 路面電車の運行速度の向上に向けた電車優先信号の増設を検討するほか、各停留場においては、電車の現在位置や到着予想時間などの情報を電光掲示板や音声等で知らせるシステムの導入の検討を進めます。
- ICカードの公共施設や商業施設との連携による利用を促進するとともに、よりスムーズに乗り降りできる改札方法などを検討し、利用者サービスの一層の向上を目指します。

